

北京大学図書館蔵『曆事明原』の発見と新たな校訂（中）

大川俊隆 大野裕司

一、始めに

二、北京大学図書館蔵『曆事明原』の発見

三、北京大学本の来歴

四、北京大学本の書写字体の特徴について

五、北京大学本を用いた校訂（巻一）

（以上、（上）に載る）

六、北京大学本を用いた校訂（巻二）

（以下、「奎」は奎章閣本を、「北」は北京大学本を表す。

『星曆考原』に同文が見える場合は、その異同を記す（『星曆』と略す）。異同を記していないものは、『星曆考原』には同文がないものである。また奎章閣本に基づいて、「2オ」などと葉数とその表・裏を挙げておいた。巻三の校訂も同じ）。

1、（目録1ウ）

奎「執儲曆」

北「執儲」

2、（1オ）「天道」

奎「乾坤寶典曰、天道者天之元陽、順理之方也」。

北「乾坤寶典曰、天道者天之元陽、順理之方也」。

（『星曆』に「元陽」に作る）

3、（1ウ）「天徳」

奎「乾坤寶典曰、天徳者、…可以興土工營屋室。故 叔席

章曰…」。

北「乾坤寶典曰、天徳者、…可以興土工營屋室。故叔席

章曰…」。

（『星曆』に「興土工營宮室」に作る。「工」「功」は通用字、

以下一々採らず）。

4、（1ウ）「天徳」

奎「堪輿経曰、天徳者、…」。

北「堪輿経曰、天徳者、…」。

（『星曆』に「堪輿経」に作る。以下一々採らず）。

5、(1ウ)「天徳」

奎「四季之月以陽干為天徳者、是天道憫其自墓也。謂三月壬、六月甲、九月丙、十二月庚、是天道以徳惠其自墓也」。

北「四季之日以陽干為天徳者、是天道憫其自墓迎」。

〔謂〕以下の二十三字、北本に無し。『星曆』に「四季

之月以陽干為天徳者、是天道惠其自墓也。三月壬、水

墓。六月甲、木墓。九月丙、火墓。十二月庚、金墓。

故以陽干為徳也」に作る。北本「日」「迎」は「月」「也」の誤。

6、(1ウ)「天徳」

奎「四仲之月、以四維之卦者、是天道憫其變化成功也」。

北「四仲之月、以四維之卦、是天道憫其變化成功也」。

〔『星曆』に「以四維之卦為徳者、是天道變化成功也」に作る。〕

7、(2オ)「天徳」

奎「孟春之月、東風解凍、…天地同和、草木萌動」。

北「孟春之月、東風解凍、…天地同和、草木萌動」。

〔今本『礼記』月令に「和同」に作る。〕

8、(2ウ)「天徳」

奎「季夏之月、…以為民祈福。是月内母舉大事。則有天殃」。

北「季夏之月、…以為民祈福。是月也母卒大事。則有天殃」。

〔今本『礼記』月令に「是月也」に作る。〕

9、(2ウ)「天徳」

奎「孟秋之月、…萬物至成、莫大坤。故以坤之納甲發為天徳也」。

北「孟秋之月、…万物至成、莫大乎坤。故以坤之納甲發為

天徳也」。

10、(2ウ)「天徳」

奎「仲秋之月、殺氣寢盛、陽氣日衰」。

北「仲秋之月、殺氣浸盛、陽氣日衰」。

〔今本『礼記』月令に「浸」に作る。〕

11、(2ウ)「天徳」

奎「易曰、故萬物之成所、終而所成始也」。

北「易曰、故万物之所成、終而所成始也」。

〔今本『周易』説卦伝に「所成」に作る。〕

12、(3オ)「天徳」

奎「季冬之月、…二陽来、助剛侵而長、萬物始動、疾乎雷」。

北「季冬之月、…二陽来、助剛浸而長、万物始動、**凶**疾乎雷」。

〔『易』説卦に「動萬物者莫疾乎雷」に作る。「凶」は「莫」の俗字か。〕

13、(3ウ)「月徳合」

奎「五行論曰、…所直之日、百福并集」。

北「五行論曰、…所直之日、百福并集」。

〔『星曆』に「百福並集」に作る。〕

14、(4オ)「月徳合」

奎「震圭謂、天徳・月徳合者、是徳惠之神、夫婦也」。

北「圭謂、天徳・月徳合者、是徳惠之辰、天婦也」。

15、(4才)「月空」

奎「天寶曆曰、月空者、月中陰徳之神。所理之地、宜會親姻、安産室。所直之日、宜設籌謀、定計策、陳利害、獻章表」。

北「天寶曆曰、月空者、月中陰陽之神。所理之地、宜會親結友、安産室。所直之日、宜設籌謀、定計策、陳利害、獻章表」。

(『星曆』に「月中陰徳之神」「會親姻」「陳剥利害」に作る。

北本の「籌」は「籌」の俗字。

16、(4才)「月空」

奎「震圭謂、月空者、…盖寅午戌、火王用事。壬水無用」。

北「圭謂、月空者、…盖寅午戌、火旺用事。壬水無用」。

(『星曆』に「盖寅午戌」の下に「月」字あり。「王」「旺」は通用字。以下一々挙げず)。

17、(4ウ)「天恩」

奎「天寶曆曰、天恩者、施徳寛下之神也。天有四禁。常開一門。

甲為陽徳、配己合偶。助成養育之徳。故甲配子、己配卯酉」。

北「天寶曆曰、天恩者、施徳寛下之辰也。天有四禁。當開一門。

甲為陽徳、配己合偶。助成養育之徳。故甲配子、卯酉」。

(『星曆』に「常開一門」に作る。北本に「己配」の二字無し。『星曆』には有り)。

18、(4ウ)「天恩」

奎「其日可以施恩賞、布政事、恤孤惻、興宴樂」。

北「其日可以施恩賞、布政事、恤孤惻、興宴會」。

(『星曆』に「興宴樂」に作る)。

19、(4ウ)「天恩」

奎「震圭謂、天有四禁者、子午卯酉也。…聖人處明堂而天下治。故常開此門」。

北「圭謂、天有四禁者、子午卯酉也。…聖人處明堂而天下治。故常開此門」。

(『星曆』に「故常開此門」に作る)。

20、(5才)「天赦」

奎「天寶曆曰、天赦者、…其日可以緩刑獄、雪冤枉、施恩惠、行陰陽」。

北「天寶曆曰、天赦者、…其日可以緩刑獄、滌冤枉、施恩惠、行陰陽」。

(『星曆』に「雪冤枉」に作る)。

21、(5ウ)「天赦」

奎「震圭謂：以己日配之於陰、以己配之於陽。順前臨當王之陽辰是也。故曰天赦」。

北「圭謂：以己配之于陰、以己配之于陽。順前臨當王之陽辰是也。故天赦」。

(北本に「日」字無し)。

22、(6才)「生氣」

奎「震圭謂、生氣者、萬物所生之辰也。生育萬物者土也。土之所屬者四季也。四季者乃四時五行所衰之辰也。自衰、

然後可生彼」。

北「圭謂、生氣者、万物所生之辰也。生育万物者。土王之所屠者四季也。四季者以四時五行所哀之辰也。与哀、然後可生彼」。

(北本「土也」の二字無し。『星曆』に「生育萬物者土也」

土之所居者四季也)「自衰」に作る。北本の「屠」は「屬」の或体か。北本は「衰」を後文でしばしば「哀」に作る。以下一々採らず)。

23、(6ウ)「生氣」

奎「震圭謂：水至丑則衰、然後生木於前。則木之長生者亥也。木衰於辰、生火於前。火之長生者寅也。火衰於未」。

北「圭謂：水至丑則衰、然後生木于前。則木之長生者亥也。火衰於未」。

(北本「木衰於辰」以下の十五字無し。『星曆』は「火之長生者在寅也」と「在」字が加わる以外は、奎本に同じ)。

24、(7オ)「天喜」

奎「震圭謂、天喜者四時天道喜愛之神也。：春木、生火為子。以火之壬午為天喜。：金之所居者丑也。以丑為天喜。故洞原經云、：冬水、生木為子。木之所居者未也。以未為天喜」。

北「圭謂、天喜者四時天道喜愛之辰也。：春木、生火為子。以火之正午為天喜。：金所居者丑也。以丑為天喜。洞玄經云、：冬水、生木為子。木之所居者未也。以木為天喜」。

(『星曆』に「四時天道喜愛之神也」「以火之壬於午為天喜也」に作る。北本に「故」の字無し。奎本の「洞原經」は北本に「洞玄經」に作る。『星曆』に「洞源經」に作る。以下一々挙げず)。

25、(7オ)「天倉」

奎「震圭謂：至二月、陰陽氣離、則建事於前、私藏於後。故歷丑逆行十二辰。至七月、陰陽否。其氣又相同而無私」。

北「圭謂：至二月、陰陽氣離、又相同而無私」。

(『星曆』に「陰陽氣離、則建事於前、私藏於後。故歷丑逆行。至七月、陰陽否。其氣又同」に作る。北本に「則建事於前」以下の二十四字無し)。

26、(7ウ)「天馬」

奎「神樞經曰、天馬者天之驛騎也」。

北「神樞經曰、天馬者天之駟騎也」。

(「駟」は「驛」の俗字。北本ではほほこの字に作るも、まれに「驛」に作る。以下一々挙げず。『星曆』は「驛」に作る)。

27、(7ウ)「天馬」

奎「震圭謂：是陽不以盡剥。故常存焉。然戌者乾體當王之陽辰、世身之屬」。

北「圭謂：是陽不可以盡剥。夜常存焉。然戌者乾體當王之陽辰、世身之屬」。

(北本「厲」は「屬」の俗字か。22には「屠」に作る)。

28、(8才)「驛馬」

奎「震圭謂、驛馬者、五行將病、得見妻子也。似人值困途、逢妻子者」。

北「圭謂、駟馬者、五行將病、得見妻子也。似人值困途、逢妻子者」。

(『星曆』に「似人值困途」に作る)。

29、(8ウ)「三合」

奎「曾門経曰、謂三辰者、異位而同氣同類也。…其日宜結會親姻、和合交易、修營起土、立柱上梁」。

北「曾門経曰、謂三辰者、異位而同氣同類也。…其日宜結會親姻、和合交易、修營起土、立柱上梁」。

(『星曆』に「異位而同氣也」「立柱上梁」に作る。「異」は「異」の異体字か。70にも見える)。

30、(8ウ)「三合」

奎「曆例曰、正月在午戌。…六月在亥卯。餘倣此」。

北「曆例曰、正月在午戌。…六月在亥卯。餘倣此推之」。

(奎本に「推之」の二字無し。『星曆』は七月より十二月まで干支をすべて載せる)。

31、(9才)「福德」

奎「總要経曰、…」。

北「總要経曰、…」。

(『星曆』に「總要経」に作る。奎本、ここ以外では「總要経」に作る)。

32、(9才)「福德」

奎「震圭謂…二月卯、木生巳、火為子。火能制金鬼也。三月辰之衰、木能生午、火為子」。

北「圭謂…二月卯、水生巳、火為子。火能制金鬼也。三月辰之衰、未能生午、火為子」。

(『星曆』に「木生巳」「未能生午」に作る)。

33、(9ウ)「吉期」

奎「總要経曰、…所直之日、宜出軍行師、攻城塞、興吊伐、會親姻」。

北「總要経曰、…所直之日、宜出軍行師、攻城塞、興吊伐、會親姻」。

(「吊」は「弔」の俗字。『星曆』に「興弔伐」に作る。以下一々挙げず)。

34、(10才)「要安」

奎「樞要経曰、要安者月中吉神也。所直之日、安撫邊境、修葺城隍」。

修葺城隍」。

北「樞要経曰、要安者月中吉神也。所直之日、安撫邊境、修葺城隍」。

(『星曆』に「安撫邊境、修葺城隍」に作る。「扞」は恐らく「撫」の俗字ならん)。

35、(11才)「敬安」

奎「樞要経曰、敬安者、恭順之神也。所直之日、睦親族、叙尊卑、…」。

叙尊卑、…」。

北「樞要曆曰、敬安者、恭順之神也。所直之日、宜睦親族、叙尊卑、…」。

(奎本に「宜」の字無し。『星曆』に「宜」の字有り)。

36、(11才)「敬安」

奎「曆例曰、敬安者、正未、二丑、三申、…十一子、十二午」。

北「曆例曰、敬安者、正未、二丑、三申、…十一子、十二午」。

(『星曆』に「十二月午」に作る)。

37、(11才)「敬安」

奎「震圭謂、敬安者は陰陽相交媾之義也。…蓋未申酉戌亥、陰氣用事之辰」。

北「圭謂、敬安者は陰陽相會交媾之義也。…蓋未申酉戌亥、陰氣用事之辰」。

(『星曆』に「蓋未申酉戌亥」に作る)。

38、(12才)「福生」

奎「震圭謂、福生者、月内祈求福願之神也。…更宜在修徳・行仁・結願・求恩・祀神・致祭、以保永遠不墮貧困者」。

北「圭謂、福生者、月内祈求福願之神也。…更宜在修徳・行仁・結願・求恩・祀神・致祭、以保永遠不墮貧困者」。

39、(12才)「聖心」

奎「震圭謂…故聖人居中、理治八方、不妄亂於陰陽」。

北「圭謂…故聖人居中、理治人方、不妄亂於陰陽」。

(『星曆』に「聖人居中、理治八方」に作る)。

40、(12ウ)「益後」

奎「樞要曆曰、益後者、月中福神也。所直之日、宜造宅舍、築垣墻、行嫁娶、安産室」。

北「樞要曆曰、益後者、月中福神也。所直之日、宜造宅舍、築垣墻、行嫁娶、安産室」。

(『星曆』に「築垣墻」に作る)。

41、(13ウ)「續世」

奎「震圭謂…其子寅辰午申戌、陽月居之。使陽精不泄也。…故易云、闔戸謂之坤。闔戸謂之乾。一闔一關謂之變」。

北「圭謂…其子寅辰午申戌、陽月居之。使陽精不散也。…故易云、闔戸謂之坤。閉戸謂之乾。一闔一閉為之變」。

(今本『易』繫辭上に「闔戸謂之坤。闔戸謂之乾。一闔一關謂之變」に作る)。

一闔謂之變」に作る)。

42、(13ウ)「天后」

奎「總要曆曰、天后者、月中福神也。所直之日、宜求醫・治病・集福・禮神」。

北「總要曆曰、天后者、月中福神也。所直之日、宜求醫・治病・集福・禮神」。

(『星曆』に「宜求醫・療病・祈福・禮神」に作る)。

43、(13ウ)「天后」

奎「震圭謂、天后者、驛馬也。…及有生戌為食也。做此」。

故曰天后。」

北「圭謂、天后者、駟馬也。…及有生戌為食也。他倣此。故曰天后。」

44、(14才)「天巫」

奎「總要曆曰、天巫者、月中善神也。所直之日、宜各樂・請醫・祝鬼神・求福願」。

北「總要曆曰、天巫者、月中善神也。所直之日、宜各樂・請醫・祝鬼神・求福願」。

(奎本の「各樂」、北本の「各樂」は『星曆』に「合樂」に作る。『星曆』がよい)。

45、(14才)「天願」

奎「震圭謂、天願者、乃月建枝徳合神也。…若遇四孟及丑未午者、無合。…丑未為陰陽絶蔑之辰。…故不可為合也。

…今忌、用取近者午、以壬午甲配之、得甲午也。…四月丙子。忌亥、退合丑、就以丁配。若不用丁、則六月壬戌無所配也。

故得丁丑。…七月否建之辰、忌丑、就寅。寅中有甲。從其泰也」。

北「圭謂、天願者、乃月建枝徳合神也。…若選四孟及丑未午者、無合。…丑未為陰陽絶蔑之辰。…故不可合也。…

今忌、用取近未者、以壬子甲配之、得甲午也。…四月丙子。五月忌亥、退合丑、就以丁配。若不用丁、則六月壬戌無所配也。

故得丁丑。…七月否建之辰、忌丑、就寅。寅中有甲。從其太也」。

(北本に「為」の字無し。「泰」と「太」は通用字。以下には採らず。『星曆』に「若遇四孟及丑未午者」「丑未為陰陽絶蔑之辰」「故不可為合也」「以壬子甲配之」「從其泰也」に作る)。

46、(15才)「四相」

奎「總要曆曰、四相者、四時干相之辰也。其日宜修營・起工・養育・生財…」。

北「總要曆曰、四相者、四時干相之辰也。其日宜修營・起土・養育・生財…」。

(『星曆』に「起工」に作る)。

47、(15才)「四相」

奎「震圭謂、四相者、養育之道。…惟庚辛者金也。能殺萬物。故不可用。義自然」。

北「圭謂、四相者、養育之道。…惟庚辛者金也。能殺萬物。故不可用。其宜自然」。

(奎本に「其」の字無し。「義」と「宜」は通用字。以下一々採らず。『星曆』にこの句無く、「故不可用」で終る)。

48、(15才)「四時天徳」

奎「震圭謂、子寅辰午乃東方生育之陽辰。…是我生者為徳。故因焉。其義如此」。

北「圭謂、子寅辰午乃東方生育之陽辰。…是我生者為徳。故因名焉。其宜如此」。

(北本の「故因名焉」、『星曆』に「亦名時徳」に作る)。

49、(16才)「陰徳」

奎「總要曆曰、陰徳者、月内陰徳之神也。所直之日、宜施陰鷲、行惠愛、雪冤枉、舉正直」。

北「總要曆曰、陰徳者、月内陰徳之神也。所直之日、宜施陰鷲、行惠愛、雪冤枉、齊正直」。

〔『星曆』に「舉正直」に作る。「齊」は「舉」の俗字「卒」の訛か。以下採らず。〕

50、(16ウ)「解神」

奎「震圭謂、解神者、月中對奏直諫之臣也」。

北「圭謂、解神者、月中對奏 諫之臣也」。

〔「奏」は「奏」字の俗字か。北本に「直」字無く、一字分の空格。『星曆』は奎本に同じ。〕

51、(16ウ)「六儀」

奎「震圭謂：故以六儀敵衝、以威厲之、使不敢妄失儀容也。故因名之。常與陰建對衝也」。

北「圭謂：故以六儀敵衝、以威厲之、使不敢妄失儀容也。故因名之。常與門建兌冲也」。

〔「厲」は「厲」の俗字であろう。『星曆』に「故六儀與敵衝、以威厲之」に作る。〕

52、(17才)「時陽」

奎「震圭謂：故其日宜叙婚姻、行宴樂、施布儀、為喜」。

北「圭謂：故其日宜叙婚姻寺事」。

〔北本に「行宴樂施布儀為喜」の八字無く、「寺事」と略す。〕

〔「寺」は「等」の俗字。以下は採らず。『星曆』に「施布儀、為喜」の句無し。〕

53、(17才)「時陰」

奎「震圭謂：故其日宜運筭謀、畫計策、會親友、睦子孫。推之之法、常以月建加功曹子上。：三陽交泰之所也。故此如之」。

北「圭謂：故其日宜運筭寺前事。推之法、常以月連加功曹子上。：三陽交泰之所也。故此如之」。

〔北本に「畫計策會親友睦子孫」の九字無く、「寺前事」と略す。「寺」は「等」の略字。『星曆』はほほ奎本に同じであるが、「推之之法」は「起例」に、「故此如之」は「故以加之」に作る。〕

54、(17ウ)「兵吉 兵福 兵寶」

奎「總要曆曰、兵吉・兵福・兵寶者、皆月内用兵之吉辰也。其日各宜出師行將、攻伐畧地」。

北「總要曆曰、兵吉・兵福・兵寶者、皆月内用兵之吉辰也。其日宜出師行將、攻伐畧地」。

〔北本に「各」の字無し。以下一々採らず。『星曆』にも「各」の字無し。〕

55、(18才)「兵吉 兵福 兵寶」

奎「震圭謂：又按、易卦師之六四曰、：」。

北「圭謂：又按、易卦布之六四曰、：」。

〔北本の「布」は「師」の字の俗字か。以下採らず。〕

56、(18才)「兵吉 兵福 兵寶」

奎「兵福・兵寶者、乃當時王相之辰也。」

北「兵福・兵寶者、乃當時三相之辰也。」

(『星曆』は奎本に同じ)。

57、(18才)「兵吉 兵福 兵寶」

奎「又按、兵家陰陽書云、凡天之上可以陣兵、九地之下可以伏形。」

北「又按、兵家陰陽書云、九天之上可以陣兵、九地之下可以伏形。」

(奎本の「凡」は「九」字の訛)。

58、(18ウ)「王日 官日 相日 民日 守日」

奎「曆例曰、王日者、春寅、夏巳、秋申、冬亥。」

北「曆例曰、王者、春寅、夏巳、秋申、冬亥。」

(北本に「日」の字無し。『星曆』に有り)。

59、(18ウ)「王日 官日 相日 民日 守日」

奎「震圭謂：相日者、四時所生官日也。相氣之辰、宰相之象。民日者、四時死絶之辰、庶民之象。」

北「圭謂：相日者、四時所生官日也。相氣之辰、宰相之相。民日者、四時死絶之辰、后民之象。」

(『星曆』は奎本に同じ)。

60、(19才)「天寶 天對 天玉 天岳 天符 執儲」

奎「曆例曰、天寶者、正月起辰。天岳者、正月起申。天符者、正月起戌。皆順行六陽辰。天對者、正月起巳。」

天玉者、正月起未。執儲者、正月起丑。皆順行六陰辰。」

北「曆例曰、天寶者、正月起辰。天玉者、正月起未。執儲者、正月起丑。天對者、正月起巳。天岳者、正月起申。天符者、正月起戌。皆順行六陽陰辰。」

(奎本と北本で「天寶」「天岳」「天符」「天對」「天玉」「執儲」の順が異なる。『星曆』は奎本に同じ)。

61、(19ウ)「天寶 天對 天玉 天岳 天符 執儲」

奎「震圭曰：是天皇之正體也。主御群靈、執萬神、能司萬物之生死。故曰命。：故不可出于九重之外。只守於世身也。」

北「圭、：是天皇之正體也。主御群靈、執萬神、能司萬物生死。故曰司命。：故不可出于九重之外。止守于世身也。」

(北本の「司命」、奎本に「司」の字無し。『星曆』に「司萬物之生死。故曰司命」に作る。『星曆』に「故不可出于九重之外。只(止)守於(于)世身也」の句無し)。

62、(20才)「天寶 天對 天玉 天岳 天符 執儲」

奎「震圭曰：其明堂之右有白虎將軍之象。：今不言正宮、以絳宮配之」

北「圭曰：其明堂之右有白虎將軍之象。：今不言正宮、以絳宮配之」

絳宮配之」

(奎本の「絳」は「絳」字の訛か。『星曆』に「今不言正宮」以下の句無し)。

63、(20ウ)「天寶 天對 天玉 天岳 天符 執儲」

奎「天皇右傍有天德、兌也。…易云、兌說也。兌說乎兌也。

說以先民。民忘其勞。說以犯難。民忘其死。說之大。民

勸矣哉。」

北「天皇右傍有天德、兌也。…易云、兌說也。說言乎兌也。

說以先民。…忘其勞。說以先難。民忘其死。說之大。民

勸矣哉。」

(今本『易』兌卦彖伝に「民勸矣哉」に作る)。

64、(20ウ)「天寶 天對 天玉 天岳 天符 執儲」

奎「天皇之左傍天刑、坎也。…蚩尤者、虐民之神。囚之如

此。」

北「天皇之左傍天刑、坎也。…蚩尤者、虐民之神。囚之如

此。」

(『星曆』に「囚(因)之如此」の句無し)。

65、(21ウ)「青龍 明堂 金櫃 天德 玉堂 司命」

奎「神樞經曰、青龍・明堂・金櫃・天德・玉堂・司命…所

直之日、皆宜興衆務。不避太歳・將軍・月刑・姓忌。」

北「神樞經曰、青龍・明堂・金櫃・天德・玉堂・司命…所

直之日、皆宜興衆務。不避太歳・將軍・月刑・姓忌。」

(「避」と「辟」は通用字。『星曆』は奎本に同じ)。

66、(21ウ)「青龍 明堂 金櫃 天德 玉堂 司命」

奎「李鼎祚曰…玉堂、正月起未。皆順行六陰辰也。」

北「李鼎祚曰…玉堂、正月起未。皆順行六陰辰也。」

(北本「米」に作るは或いは「未」の俗字か。他処にも見える。『星曆』は奎本に同じ)。

67、(21ウ)「青龍 明堂 金櫃 天德 玉堂 司命」

奎「震圭謂、黃道・明堂、其名雖異、其理一也。」

北「圭謂、黃道・明星、其名雖異、其理一也。」

(「明星」は「明堂」の誤りならん)。

68、(22オ)「寶日 義日 制日」

奎「震圭謂、干生支者、得其天時也。支生干者、得其地利

也。」

北「圭謂、幹生枝者、得其天時也。枝生幹者、得其地利

也。」

(「干」を「幹」に作り、「支」を「枝」に作るは常見。

以下採らず)。

69、(22ウ)「大明」

奎「唐李淳風、將諸家陰陽書總集、一十五日謂之大明。…

曆例曰、大明者辛未・壬申…庚辰・辛酉是也。」

北「唐李淳風、將諸家陰陽書總集、一十五日為之大明。…

曆例曰、大明者辛未・壬申…庚申・辛酉是也。」

(『星曆』は奎本に同じ)。

70、(23オ)「七聖日」

奎「震圭謂、七聖之心各異。不可達為一論也。」

北「圭謂、七聖之心各異。不可達為一論也。」

(「異」は「異」の異体字か。29にも見える)。

71、(23才)「神在日」

奎「唐賈耽總集、三十五日為之神在。其日宜禱祀・祭祀、實受其福」。

北「唐賈耽總集、三十五日為之神在。其日宜禱祀・祭祀、實受其福」。

(『星曆』に「禱祠・祭祀」に作る。北本の「實」は「實」の俗字)。

72、(23ウ)「神在日」

奎「神在日者、甲子・乙丑…戊申・己酉・庚戌…」。

北「神在日者、甲子・乙丑…戊甲・己酉・庚戌…」。

(『星曆』は奎本に同じ。北本の「戊甲」は「戊申」の誤り)。

73、(23ウ)「神在日」

奎「震圭謂…寅者、陽氣發泄之辰、陰氣消盡之位。…亥巳

者、陰陽極終之辰、亦不受福也。惟乙巳・丁巳、陽光相助」。

北「圭謂…寅者、陽氣發泄之辰、陰氣消盡之位。…亥巳者、陰陽極終之辰、亦不受福也。惟乙巳・丁巳、陽光相助」。

助」。

(『星曆』は奎本に同じ。北本の「十」に作るは誤りならん。「癸」は或いは「癸」の譌か)。

74、(23ウ)「神在日」

奎「然今按、三曆撮要云…今依官曆改正如是。未審舊曆為

非、新曆為是也。若得舊本、必詳見焉」。

北「然按、三曆撮要云…今依官曆改正如是。未審旧曆約非、新曆為是也。若謂旧本、必詳見焉」。

(北本に「今」の字無し。北本の「約」の字は「為」の誤りならん。『星曆』は奎本に同じなるも、「若得舊本、必詳見焉」の二句無し)。

必詳見焉」の二句無し)。

75、(24才)「五合日」

奎「震圭謂…且如其他之位、進五無所配也」。

北「圭謂…上如其他之位、進五無所配者」。

(奎本「且如其他之位」は、『星曆』に「若其位」に作る)。

76、(24ウ)「陰陽不將」

奎「天寶曆曰、陰陽不將者、以月建為陽、…月厭為陰。謂之陰建」。

北「天寶曆曰、陰陽不將者、以月達為陽、…月厭為陽。謂之陰建」。

(『星曆』は奎本に同じ。北本の「達」「陽」に作るは誤りならん)。

77、(25ウ)「陰陽不將」

奎「十月、癸卯・癸巳・己卯・己巳・壬寅・壬辰・壬午・辛卯・辛巳…」。

北「十月、癸卯・癸巳・己卯・己巳・辛丑・辛卯・辛巳…」。(奎本の「壬寅・壬辰・壬午」を北本に「辛丑」に作る)。

『星曆』は奎本に同じ。

78、(26才)「周堂合日之晷」

奎「夫 厨 婦 竈 第 翁 堂 姑」。

北「夫 厨 婦 灶 第 翁 堂 姑」。

(北本の「灶」は「竈」の俗字。『星曆』は奎本に同じ)。

79、(26ウ)「周堂合日之晷」

奎「震圭謂：震為婦。是厨因之間、婦所在也」。

北「圭謂：震為婦。是厨灶之間、婦所在也」。

(奎本の「因」、北本の「灶」、いずれも「竈」の俗字。『星曆』は「竈」に作る)。

80、(26ウ)「周堂合日之晷」

奎「誤傳者、大抵八卦之位：然非出乎 震圭獨意」。

北「悞傳者、大抵八卦之位：然非出乎 圭意」。

(「誤」と「悞」は同字。奎本中でも「悞」の字が用いられる事有り。『星曆』は「悞」に作る。北本に「獨」の字無し)。

81、(26ウ)「鳴吠日」

奎「一行云：如用破地、則於其日擇克姓者用」。

北「一行云：如用破地、則於其擇克姓者用」。

(北本に「日」の字無し。「擇」は「擇」の俗字。『星曆』は奎本に同じ)。

82、(27ウ)「鳴吠日」

奎「震圭謂：又云、宰我曰。吾聞鬼神之名。不知其所謂」。

：其氣發揚于上爲照明」。

北「圭謂：又云、宰我曰。吾聞鬼神之名。不知其所謂。：

其氣發揚于上爲炤明」。

(「宰我」以下は『礼記』祭儀の文。「照」「炤」は同字。

祭儀には「昭」に作る)。

83、(27ウ)「鳴吠日」

奎「易曰、山澤通氣、然後能變化、既成萬物也。由是觀之、

金鷄者、兌也」。

北「易曰、山澤通氣、然後能變化、既成萬物也。如是觀之、金鷄者、兌也」。

(奎本の「由」に作るのがよい)。

84、(28才)「鳴吠日」

奎「又按系辭云、：知鬼神之情狀。此之謂也。故原始反終

曰字、經中止論生死二理也」。

北「又按係辭云、：知鬼神之情狀。此之謂也。故原始反終四字、經中止論生死二理也」。

(北本に依りまさに「四」に作るべし)。

85、(28才—28ウ)「鳴吠日」

奎「今震圭愚見、：其餘萬物、若精氣堅王、則遲死。柔衰、

則速死。：」。

北「今圭愚見、：其餘萬物、若精氣堅王、則遲配。柔衰、則速配」。

86、(28ウ)「鳴吠日」

奎「假令兌加艮、…鬼死、則為魍魎、不可用也。甲寅者、自王也。鬼王、則為神也」。

北「假令兌加艮、…鬼死、則為魍魎、不可用也。甲寅者、自生也。鬼王、則為神也」。

〔『星曆』に「甲寅・丙寅者、乃死・自旺・自生之日也」に作る。〕

87、(29才)「鳴吠日」

奎「故地理新書説、…上有一金鶏。下有二神人」。

北「故地理新書説、…上有一金鶏。二有二神人」。

〔奎本により「下」に作るべし。『星曆』も同じ。〕

88、(29才)「鳴吠日」

奎「至漢孫氏曰、…義相背於前理。…其辰戌丑未、五行之墓」。

之墓」。

北「至漢孫氏曰、…義相背于前理。…其辰戌丑未、五行之墓」。

〔北本に「墓」に作るは、「墓」の誤りか。〕

89、(29ウ)「鳴吠日」

奎「子卯者、是子母相刑無恩。而悖逆亦不可稱也」。

北「子卯者、是子母相刑無恩。而時逆亦不可稱也」。

90、(29ウ)「鳴吠日」

奎「寅午者、火之位。陽之精、象日。…鳴以告人。主陽是陽唱而陰和也」。

陽唱而陰和也」。

北「寅午者、火之位。陽之精、象日。…鳴以告人。生陽是

陽唱而陰和也」。

91、(29ウ)「鳴吠日」

奎「此孫氏之自見、非有所自而來也」。

北「此孫氏云自見、非有所自而來也」。

〔奎本により「之」に作るべし。〕

92、(30才)「鳴吠對日」

奎「震圭謂、對者、與鳴吠日相對也」

北「圭謂、呼者、與鳴吠日相對也」

〔奎本により「對」に作るべし。『星曆』に「按」として

「鳴吠對者乃與鳴吠對衝之日也」とする。〕

七、北京大学本を用いた校訂(卷三)

1、(目錄1才)「目錄 月事凶神」

奎「天剛 月殺」

北「月殺 天剛」

〔北本、目錄では「天剛」「月殺」の順序が逆であるが、

本文では、奎本通り〕

2、(目錄1才)「目錄 月事凶神」

奎「天賦 蚩尤飛流 天樞陰私 土勃雷公 附」

北「天賦 致死 牢日獄日 徒隸 死別 伏罪 不幸 罪刑附 蚩尤飛流 天

樞陰私 土勃雷公 附」

3、(目録1オ)「目録 月事凶神」

奎「崑尤 飛流 天棒 陰私 土勃 雷公附 八龍七鳥 九虎 六蛇附」北「崑尤 飛流 天棒 陰私 土勃 雷公附 天刑朱雀 白虎 天牢 玄武 勾陳附 八

龍七鳥 九虎 六蛇附 忌結婚嫁娶」

4、(目録1ウ)「目録 月事凶神」

奎「專日」

北「專日 紅沙日」

5、(1オ)「月建」

奎「天寶曆曰：所直之日、宜封建・視察。不宜興造・土功・結禮」。

北「天寶曆曰：所直之日、宜封建・視事。不宜興造・土功・結親礼」。

(『星曆』に「結親禮」に作る)。

6、(1オ)「月建」

奎「震圭謂：故太白陽經曰、五帝所在不可出軍」。

北「圭謂：故太白陽經曰、五帝在所不可出軍」。

(北本「在」と「所」の右側に顛倒符号がある)。

7、(1ウ)「月建」

奎「震圭謂：不宜興造・土功者、盖乘建旺之氣」。

北「圭謂：不可興造・土功者、盖乘建王之氣」。

(『星曆』に「不宜興造・土功者」に作る)。

8、(1ウ)「月建」

奎「不宜結親禮者、陽建獨特、陰建氣消之辰」。

北「不可結親礼者、陽建獨特王氣、陰建氣消之辰也」。

(『星曆』に「陽建獨旺」に作る)。

9、(2オ)「月殺」

奎「廣聖曆曰：其日忌停賓客、興穿掘、營種植、納羣畜」。

北「廣聖曆曰：其日忌停賓客、興穿掘、營種蒔、内群畜」。

(『星曆』は奎本に同じ。「納」と「内」は通用字。以下採らず)。

10、(2オ)「月刑」

奎「廣聖曆曰、月建所刑之神。其日須忌出軍・破戰・養育・生財・結會姻親、營造屋舍」。

北「廣聖曆曰、月刑者、月建所刑之辰。其日忌出軍・攻戰・養獸・生財・結會親姻、營造屋舍」。

(『星曆』に「其日忌出軍・攻戰・養育」に作る)。

11、(2ウ)「月刑」

奎「震圭謂：假令無恩刑者、謂巳火也。賴寅木而生育、欲以長生之金、以制寅木也」。

北「圭謂：假令無恩刑者、謂巳火也。賴寅木而生、欲持長生之金、以制寅木也」。

(『星曆』に「賴寅木而生、反欲以長生之庚金制寅木也」に作る)。

奎「恃勢刑者、丑以墓金刑未中墓木。未以陰墓之水刑戌中墓火。戌以墓火刑丑中墓金」。

12、(2ウ)「月刑」

奎「恃勢刑者、丑以墓金刑未中墓木。未以陰墓之水刑戌中墓火。戌以墓火刑丑中墓金」。

北「持勢刑者、丑以墓金刑未中墓木。未以阴墓之水刑戌中墓火。戌以墓火刑其中墓金」。

〔『星曆』に「持勢刑者、丑以墓金剋未中墓木。未以陰墓之水剋戌中墓火。戌以墓火剋丑中墓金」に作る。〕

13、(3才)「月刑」

奎「彼云、卯為日門。子為陽之所生。此於卯者、出浮議也」。

北「彼云、卯為日門。子為陽之所生日。出于卯者、此浮議也」。

14、(3才)「月刑」

奎「不敢往也。若辰墓之土欲制未中陰墓之水、懼有木墓在焉。不敢往。若制丑中癸水」。

北「不敢往也。若制丑中癸水」。

〔若辰墓〕以下の二二字、北本に無し。〕

15、(3才)「月刑」

奎「牛中巳土欲制卯中生癸。有乙在焉。亦不敢往」。

北「牛中巳土欲制卯中生癸。有乙在焉。亦不敢」。

〔北本に「往」の字無し。〕

16、(3ウ)「月害」

奎「神樞經曰、月害者、陽害所建之辰也」。

北「神樞經曰、月害者、陽建所害之辰也」。

〔『星曆』は北本に同じ。〕

17、(3ウ)「月害」

奎「震圭謂：假令辰卯相害者、卯以乙旺之木害辰墓之土。

辰墓也土却害卯中癸生之水」。

北「圭謂：假令辰卯相害者、卯以乙王之木害辰墓之土。卯害卯中癸生之水」。

〔『星曆』に「卯以乙旺之木害辰墓之土。辰以墓土却害卯中癸水」に作る。奎本・北本の文に誤りあるか。〕

18、(3ウ)「月害」

奎「寅巳相害者、謂寅以旺甲害巳土戌土」。

北「寅巳相害者、謂寅以旺甲害巳中戌土」。

〔『星曆』は「以旺甲害巳中戌土」に作る。「甲」に作るは奎本に同じ。「中」に作るは北本に同じ。〕

19、(4才)「月害」

奎「申亥相害者、亥以生木害申中生土。申以旺金害亥中生木」。

北「申亥相害者、亥以生木害申中生土。申以生金害亥中生木」。

〔『星曆』は「申以旺金害亥中生木」に作る。奎本に同じ。〕

20、(4ウ)「小耗」

奎「樞要曆曰、小耗月内耗神也」。

北「樞要曆曰、小耗者亦是月内之耗辰也」。

〔『星曆』に「樞要曆曰、亦月内耗神也」に作る。〕

21、(5才)「小耗」

奎「震圭謂：又云、大耗之從辰神也」。

北「圭謂：又云、大耗之從辰後神也」。

〔『星曆』に「大耗之從神也」に作る。〕

22、(5才)「大時」

奎「震圭謂、大時者、乃月建三合五行沐浴之辰也。盖五行至此、則敗絕。故忌如此。是最凶之辰也。故名曰大凶之時」。

北「圭謂、大時者、乃月建三合五行沐浴之辰也。故名曰大凶之時」。

(北本「盖五行至此」以下の一八字無し。『星曆』は奎本に同じ)。

23、(5ウー6才)「四窮」

奎「總要曆曰：故曰四窮。所直之日、不可遠行征伐、出納財物」。

北「總要曆曰：故曰四窮。以直之日、不可遠行征伐、出納財物」。

(「所直之日」に作るべし。『星曆』も同じ)。

24、(6才)「四窮」

奎「震圭謂：今不如已而加亥者、何也」。

北「圭謂：令不加已而加亥者、何也」。

(北本の「令」は「今」字の訛。奎本の「如」は「加」に作るべし)。

25、(6才)「四窮」

奎「故書曰、君子固窮。小人窮斯濫矣」。

北「故書曰、君子固窮。小人窮思濫矣」。

26、(6ウ)「四繫」

奎「震圭謂：似人值衰敗逢小人、仗勢欺凌也。倣此」。

北「圭謂：似人值衰敗逢小人、仗勢相凌也。倣此」。

27、(6ウ)「五虛」

奎「樞要曆曰：其日忌開倉庫・營種蒔・出財寶・放債」。

北「樞要曆曰：其日忌開倉庫・營種蒔・出内財寶・放債」。

(『星曆』に「内」の字無し)。

28、(7才)「五虛」

奎「震圭謂：秋金旺、亥卯未、木絶也。其忌如此」。

北「圭謂：秋金王、亥卯未、木絶也。水王、寅午戌、火絶也。其忌如此」。

(北本の「水王」以下の八字、奎本に無し。『星曆』に「冬

水旺、寅午戌、火絶也」に作る)。

29、(7才)「五墓」

奎「震圭謂、五墓者、五行主于自臨墓辰也」。旺

北「圭謂、五墓者、五行主于自臨墓辰也」。

(『星曆』に「五墓者、五行旺于自臨墓辰也」に作る)。

30、(7ウ)「九坎」

奎「廣聖曆曰、九坎者、月中殺神也。其日忌乘船・渡水・

撇江河・築垣牆苦蓋屋舍」。

北「廣聖曆曰、九坎者、月中殺神也。其日忌乘船・撇渡江

河・築壘垣牆、苦蓋屋舍」。

(『星曆』に「其日忌乘船、渡水、修隄防、築垣牆、苦蓋

屋舍」に作る。北本の「撇」、或いは「撇」の異体字か)。

31、(7ウ)「九焦」

奎「廣聖曆曰：其日忌置爐冶、興鑄鎔、種植、修田圃」。
北「廣聖曆曰：其日忌置炉冶、興鑄鎔、種蒔、修園圃」。

〔『星曆』に「興鑄鎔、種植、修園圃」に作る。「植」と「蒔」は同義。以下一々採らず。〕

32、(8才)「九焦」

奎「五六七八為歲之中月。今雖用仲辰成熟萬物、然歲首不與其生。焉有成熟哉」。

北「五六七八為歲之中月。今雖用仲辰成熟萬物、然歲首不與其生。焉有成熟哉」。

〔『星曆』に「今雖用仲辰成熟萬物」に作る。〕

33、(8才)「九焦」

奎「又名曰九坎。故坎者勞封也」。
北「又名曰九坎。故坎者勞卦也」。

34、(8ウ)「九空」

奎「震圭謂：假令寅午戌、火庫在戌辰。能衝散也。亥卯未月、木墓在未丑。能破散也」。

北「圭謂：假令寅午戌月、火庫在戌辰。能衝散也。亥卯未月、木庫在未丑。能破散也」。

〔『星曆』に「假令寅午戌月」「木墓在未丑。能衝散也」に作る。〕

35、(8ウ)「九空」

奎「今歷家所傳、與九坎・九焦同行者非也。是所傳者有誤。今按紀歲曆、止是逆行四季」。

北「今歷家所傳、與九坎・九焦同行者非也。是所傳者有誤。今按記曆歲、正是逆行四季」。

〔『星曆』に「紀歲曆亦止是逆行四季」に作る。北本「記曆歲」は「紀歲曆」の誤り。〕

36、(8ウ)「大殺」

奎「李鼎祚曰、大殺者、正月在戌。二月在巳。三月在午。…」。
北「李鼎祚曰、大殺者、正月在戌。二月巳。三月午。…」。

〔北本、二月以降「在」を略す。この省略は頻見するので、以下採らない。〕

37、(8ウ)「大殺」

奎「震圭謂：今大殺者、月中廉察也。密察諸神」。
北「圭謂：今大殺者、月中兼察也。密察諸神」。

〔『星曆』に「廉察」に作る。「廉」と「兼」は通用する。以下一々採らず。〕

38、(9才)「大殺」

奎「故巡察南方、使有成熟也。其午未申月歷在東方。故萬物成熟。故宜在養育也」。

北「故巡察南方、伐有成熟也。其午未申月歷東方。故萬物成熟。更宜再養育也」。

〔『星曆』に「使有成熟也」「歷東方」「宜在養育也」に作る。〕

39、(9ウ)「死氣」

奎「震圭謂：或云、生氣之衝辰也。或云、氣之衝辰也。謂、我愛其生」。

北「圭謂：或云、生義之冲辰也。謂、我愛其生」。

（奎本、同句を重複する。北本と『星曆』は誤たず）。

40、（9ウー10オ）「死神」

奎「震圭謂、死神者、以本建為旺辰。…大抵死氣之前必有死神。其義同前」。

北「震圭謂、死神者、以本建為旺辰。…大抵死氣之前必有死神。其」。

（『星曆』に「本建」を「月建」に作る。北本に「義同前」の三字無し。『星曆』には有り）。

41、（10オ）「遊禍」

奎「震圭謂、遊禍者、三合五行臨官之神、亡辰也。…蓋亡辰之神為事不正、謀詐諂佞。是淫舌之虛神也」。

北「圭謂、遊禍者、三合五行臨官之神、亡辰也。…蓋亡辰之神為事不正、謀詐諂佞。是濫舌之虛神也」。

（『星曆』に「三合五行臨官之神也」に作る。「蓋亡辰之神」以下の文、『星曆』に無し）。

42、（10ウ）「天火」

奎「震圭謂：蓋卯中有伏燄之火也。蓋火氣既生寅、至卯木旺極多、反弊其燄而為炭」。

北「圭謂：蓋卯中有伏燄之火也。蓋火氣既生寅、至卯木旺極多、反弊其燄而為炭」。

（『星曆』に「燄之火也」「反蔽其燄而為炭」に作る。「燄」と「焰」は同字）。

43、（11オ）「天火」

奎「申子辰月午、蓋午中有正旺之火。其勢最大、物莫敢侵。其光反闇」。

北「申子辰月午、蓋午中有正旺之火。其勢最大、物莫敢侵。其光反闇」。

（『星曆』に「申子辰月在午」に作る以外は奎本と同じ）。

44、（11オ）「天火」

奎「故西中有山下之火也。論至如此」。

北「故西中有山下之火也。論之如此」。

45、（11オ）「天火」

奎「蓋此四火皆是不求而不測而生」。

北「蓋此四火皆是不求而有、不測而生」。

（北本に「有」の字有り。有る方がよい）。

46、（11ウ）「天狗」

奎「曆例曰、天狗者、有常居月建前三辰」。

北「曆例曰、天狗者、常居月建前三辰」。

（『星曆』に「有常居月建前三辰」に作る。奎本もすぐ後ろに「居月建前三辰」の句有り）。

47、（11ウ）「天狗」

奎「震圭謂：故居建前二辰。是禦於門首也」。

北「圭謂：故居建前二辰。是禦于門者也」。

奎「土符土府 地囊附」

北「土符 一府 地囊附」

(北本「二」は「土」の誤り)。

49、(12才)「土符」

奎「震圭謂、土符者、乃土地掘符信之神、使掌五土地」。

北「圭謂、土符者、乃土地掘符信之神、使掌五土也」。

(『星曆』は北本に同じ)。

50、(12ウ)「土符」

奎「冬之水旺、土亦剛堅。故賴其火、以柔和之」。

北「冬之水王、土亦剛堅。故賴其水、以柔和之」。

(『星曆』に「賴其水、以柔和之」に作る)。

51、(12ウ)「土符」

奎「月建者是月内萬神之主也。各隨四時而必」。

北「月建者是月内萬神之主也。各隨四時而化」。

(『星曆』に「各隨四時而化運」に作る)。

52、(12ウ)「土符」

奎「故坤有括囊之文。因以名之。謂坤能自滋生、裹囊萬物

也。此其義也」。

北「故坤育括囊之文。因以名之。謂坤能自滋生、裹囊萬物

其義也」。

(「裹」は「裏」の俗字)。

53、(12ウ)「土符」

奎「今按、月令云：天地和、草木萌動。：故 月以震納甲

為地囊也」。

北「今按、月令云：天地和同、草木萌動。：故正月以震納

甲為地囊也」。

(『礼記』月令に「和同」に作る。奎本、「故」の下一字空格。

北本に従い、「正」とすべし)。

54、(12ウ)「土符」

奎「仲春之月：當養生者、德莫比坤」。

北「仲春之月：雷養生者、德莫以坤」。

55、(13才)「土符」

奎「仲夏之月：雩祀山川百源、設坎壇」。

北「仲夏之月：雩祀山川百源、設坎壇」。

(「坎」は「壇」の俗字)。

56、(13才)「土符」

奎「季夏之月：利以殺草。如以熱湯。可以糞四疇。可以美

土疆」。

北「季夏之月：利以殺草。如以熱湯。可以糞田疇。可以美

土疆」。

(北本「疇」は「疇」の俗字)。

(『礼記』月令の文は「田」に作る)。

57、(13才)「土符」

奎「孟秋之月：故易曰、萬物之所以終而所以成始也。莫盛

乎艮。故用艮之納甲也」。

北「孟秋之月：故易曰、萬物之所成終而所成始也。莫盛乎

艮。故用辰之納甲也」。

(北本が「辰」に作るは誤り)。

58、(13ウ)「土符」

奎「季冬之月：水澤腹堅、修耒耜耦耕事。具田器」。

北「季冬之月：水澤腹堅、修水耜耦耕事。具田器」。

(『礼記』月例に「命農計耦耕事。脩耒耜。具田器」とあるに基づく)。

59、(13ウ)「土符」

奎「其德厚載而致役者、莫大乎坤。故用坤之納甲也」。

北「其德厚載而致役者、莫大乎坤。故用坤之納甲也」。

(『易』説卦の「致役乎坤」とあるに基づく)。

60、(14オ)「兵禁」

奎「震圭謂：又按、月令曰、孟春之月、不可稱兵。稱兵必

天殃。兵戎不起。不可從可始」。

北「震圭謂：又按、月令曰、孟春之月、不可稱兵。必天殃。

兵戎不起。不可從我始」。

(北本に「稱兵」の二字無し。『礼記』月令に「不可從我始」に作る)。

61、(14オ)「兵禁」

奎「二月、子。相刑四殺也」。

北「二月、子。刑四殺也」。

(『星曆』に「二月、子。相行四殺也」に作る)。

62、(14オ)「兵禁」

奎「七月、寅。破耗三刑也」。

(この句、北本は脱す。『星曆』は奎本に同じ)。

63、(14ウ)「伐日」

奎「遁甲経曰、伐日者、支干克辰也。其日忌攻討、征伐、出軍、

畧地」。

北「遁甲経曰、伐日者、枝克干辰也。其日忌攻討、征戰、出軍、畧地」。

(『星曆』に「伐日者、支剋干辰也」に作る)。

64、(15ウ)「徃亡」

奎「又曰、徃亡者、：立秋後九日。白露後十八日。寒露後

二十七日。立冬後十日」。

北「又曰、徃亡者、：立秋後九日。白露一十八日。寒露

二十七日。立各後十日」。

(『星曆』は奎本に同じ)。

65、(15ウ)「徃亡」

奎「震圭謂、徃亡者是憂思天地之道、徃而不反、亡而再無

之神也」。

北「圭謂、徃亡者是憂思天地之道、徃而不反、徃而再无之

神也」。

(『星曆』に「徃亡者徃而不反之意也」に作る)。

66、(15ウ)「徃亡」

奎「正三四月者、是歲之初、皆以四孟為之。乃五行初生

之地」。

北「正三三四月者、是歲之初、皆以四孟為之。蓋四孟之辰、乃五行初生之地」。

〔『星曆』に「皆以四孟辰為之。乃五行初生之地」に作り、
「蓋四孟之辰」の句無し〕。

67、(15ウ)「徃亡」

奎「其五六七八月、乃歲之中月。皆歷四仲之辰」。

北「其五六七八月、乃歲之中。皆歷四仲之辰」。

〔北本に「月」の字無し。『星曆』にも「乃歲之中。皆以四仲之辰為之」に作る〕。

68、(15ウ)「徃亡」

奎「其九・十・十一・十二月者、乃歲之終月。皆歷四季之辰」。

謂、四季者：是萬物皆歸徃而亡也」。

北「其九・十・十一・十二月是歲之中終月。皆歷四季之辰。謂、

季者：是萬物皆歸徃而無也」。

〔『星曆』は奎本に同じ〕。

69、(16オ)「徃亡」

奎「且如十月、徃亡在未。土無化象。便以本音土為之、則

成數十也。各陪之為次月」。

北「且如十月、徃亡在未。土无化象。便以本音土為之、則

成數十也。各倍之為次月」。

〔『星曆』に「十月立冬、未為徃亡。土無化象。便以本行

土為之。其成數十也。各倍之為次月」に作る〕。

70、(16オ)「徃亡」

奎「今水數不用者何。：四季之辰以辰為首月。其辰月以申為徃。化水成數六也」。

北「今水數不用者何。：四季之辰以辰為道月。其辰月以申為徃亡。化水成數六月」。

〔『星曆』に「四季之辰以辰為首。辰月以申為徃亡。申合水局。水之成數六也」に作る〕。

71、(16オ)「徃亡」

奎「十二月亦用土王後三六一十八日。各有徃亡。皆自契合、莫不自然之道。否、或有曆數。得節加時早晚。與此相乖者非一日」

者非一日」

北「十二月亦用土王後三六一十八日。各有徃亡。皆目契合、莫不自然之道。或有曆數。得節加時早晚。與此相乖者非一日」

一日」

〔『星曆』に「十二月亦用土旺後三六一十八日。亦得徃亡。或節氣加時早晚。間有差一日者」に作る。「節」は「節」の略字〕。

72、(16ウ)「歸忌」

奎「廣聖曆曰、歸忌者、月内之凶神也。其日忌遠行・歸家・移徙・娶婦」。

移徙・娶婦」。

北「廣聖曆曰、歸忌者、月内凶神也。其日忌遠廻・歸家・移徙・娶婦」。

〔『星曆』は「遠行」に作る〕。

〔『星曆』は「遠行」に作る〕。

73、(16ウ)「歸忌」

奎「震圭謂：是不可不出也。不可反歸於内也。其道如此。然孟月用丑者、孟乃五行長生之辰、老陰之象。欲歸建於寅、則與同類無相害也」。

北「震圭謂：是不可不出也。不可及歸于内也。其道如此。孟月用丑者、孟乃五行長生之辰、老陰之象。欲歸見于寅、則與同類無相害也」。

74、(16ウ)「歸忌」。

奎「若歸會于丑、中有二陽。是一寡婦會二男也。易曰、輿說輻」。

北「若歸會于丑、中有二陽。是一寡婦會二男也。易曰、輿說輻」。

75、(16ウ—17オ)「歸忌」。

奎「其四仲之月忌寅者、仲乃五行旺辰、剛陽之象。欲歸見子之少陽。理無相惡」。

北「其四仲之月忌寅者、仲乃五行旺辰、剛陽之象。欲歸見子之少陽。理先相惡」。

76、(17オ)「歸忌」。

奎「又一說、丑為歲功就畢、萬物所歸。…寅為三陽交泰舊。故名曰歸。歸者、而不復也。似物將死、氣而不反也。故曰忌」。

北「又一說、丑為歲功就畢、萬物歸。…寅為三陽交泰、旧歲已歸。故名曰歸。々者、歸而不復也。似物將死、歸而不及也。故曰忌」。

77、(17オ)「章光」。

奎「震圭謂、章光者、是陰建前侍婢也」。

北「圭謂、章者、是陰建前侍婢也」。

78、(17ウ)「無翹」。

奎「天寶曆曰、無翹猶外也。陽、鳥所主。陰無之。常居厭後。故曰無翹。孟月則無、為厭在季、踰在後方」。

北「天寶曆曰、无翹者、翹猶外也。陽、鳥所主。陰無之。常居厭後。故曰無翹。孟月則無、為厭在季、踰在後方」。

79、(17ウ)「無翹」。

奎「震圭謂：盖厭居季辰、為安寢之位。各歸其所也」。

北「圭謂：盖厭居季辰、為安寢之位。各歸其所處也」。

80、(17ウ)「咸池」。

奎「樞要曆曰、咸池・招搖・八風・觸水龍者、所直之日、忌乘船、渡水、涉江河」。

北「樞要曆曰、咸池・招搖・八風・触水就者、所直之日、忌乘舡、渡水、涉江河」。

〔『星曆』に「乗船」に作る。〕

81、(18才)「咸池」

奎「震圭謂：八風者、是八節・八卦之方風也。：以前三合之辰為次節。風角經云。」

北「圭謂：八風者、是八口・八卦・八方之風也。：以前三合之辰為次口風。故風角經云。」

〔『星曆』に「八風者、是八節・八卦之風也」に作る。北

本「口」は「節」の俗字。〕

82、(19才)「咸池」

奎「觸水龍者：唯火土也。其火性居上、丙丁也。土惟居處下者、四季也。其辰者、龍之正位。壬水所居」。

北「觸水龍者：唯火土也。其火性居上、丙丁也。土性處下者、四季也。其辰者、龍之正位。壬癸所居」。

〔『星曆』に「火在上為丙、土居下四季辰也。乃龍之正位。

壬水所居」に作る。〕

83、(19才)「咸池」

奎「有龍在焉。物不可觸也。以三辰不為其觸。以其自處者餘逢丙子・癸未・癸丑為觸水龍也」。

北「有龍在焉。物不可觸水。此三辰不為其觸。以其自處者餘丙子・癸未・癸丑為觸水龍也」。

〔『星曆』にこの文無し。〕

84、(19才)「血忌血支」

奎「樞要曆曰、血忌・血支者、其日忌針刺・出血」。

北「樞要曆曰、血忌・血肢者、其日忌針刺・出血」。

〔「支」と「肢」及び「枝」は通用する。以下一々採らず。〕

85、(19才)「血忌血支」

奎「震圭謂、血支者是五行生氣血之支也。：蓋精氣者、血脉於。故常居王建之後・生氣之前」。

北「圭謂、血者是五行生氣血之支也。：皆精氣者、血脉也。故常居王建之後・生氣之前」。

〔『星曆』に「血支者是氣血之支流也。故起於王建之後・生氣之前」に作る。〕

86、(19ウ)「血忌血支」

奎「故易曰、渙其血、去逖出。无咎」。

北「故易曰、渙其血、去逖出。无者」。

〔『易經』渙卦の文は奎本に同じ。〕

87、(19ウ)「血忌血支」

奎「故一歴一衝也。亦是陰陽各固精氣之辰。始不亂泄、則男從其男、女從其女也」。

北「故一歴一衝也。亦是陰陽各固精氣之辰。使不亂泄、則男從其男、女為其女也」。

〔『星曆』に「故一歴本位一居其衝也」に作り、その下の文無し。〕

88、(19ウ)「血忌血支」

奎「盖正月陰陽交泰、似男女始精結秀成形」。

北「盖正月陰陽交泰、似男女始精結秀成形」。

(この文、『星曆』に無し)。

89、(20才)「官符」

奎「震圭謂：大抵歲辰・月建當以當為正廟」。

北「圭謂：大抵歲辰・月建當以所常為正廣」。

(『星曆』に「大抵歲辰・月建以其三合前辰為文官」とあり、奎本の「當以」以下の句無し)。

90、(20才)「天吏」

奎「似人得罪而無所訴。若良民之見奸吏也」。

北「似人得罪而無所訴。若良民之見姦吏也」。

(「奸」と「姦」は異体字。以下に採らず)。

91、(20ウ)「臨日」

奎「震圭謂：是陽建之使臣、奉上命以授百官、無使失綱紀」。

北「圭謂：是陽建之使臣、奉上命以命授百官、無使失綱紀」。

正道：…是傳命與文官也」。

北「圭謂：是陽建之使臣、奉上命以命授百官、無使失綱紀」。

正道：…是傳命與文官也」。

(『星曆』は奎本に同じ。北本「傳」は「傳」の俗字か)。

92、(21才)「致死」

奎「樞要曆、致死者、月中凶神也」。

北「樞要曆曰、致死者、月中凶神也」。

(奎本に「曰」の字を脱す。『星曆』も北本に同じ)。

93、(21才)「牢日」

奎「壇經曰、…其日皆不宜臨官、視事、外壇、受職」。

北「壇經曰、…其日皆不宜臨官、視事、外壇、受職」。

(『星曆』に奎本の「外壇」を「登壇」に作る。北本は「外壇」の一字空格。「職」は「職」の俗字)。

94、(21才)「牢日」

奎「曆例曰、…獄日者、春未。夏戊。秋丑。冬辰」。

北「曆例四、…獄日者、春未。夏戊。秋丑。冬辰」。

(北本「四」は「曰」の誤り。「秋五」も「秋丑」の誤り)。

95、(21ウ)「牢日」

奎「震圭謂、牢日者、四時衰謝之辰也。衰在彼墓。故曰牢」。

北「圭謂、牢日者、四時衰謝之辰也。衰在彼墓。故曰牢」。

(北本「牢」の字を脱す。『星曆』は奎本に同じ)。

96、(22才)「蚩尤」

奎「樞要曆曰、蚩尤・飛流・天棒・陰私・土勃・雷公者、月内黑星也」。

北「樞要曆曰、蚩尤・飛流・天棒・陰私・土勃・雷公者、月内黑星也」。

月内黑星也」。

北「樞要曆曰、蚩尤・飛流・天棒・陰私・土勃・雷公者、月内黑星也」。

月内黑星也」。

(北本の「土教」の「教」の字は「勃」の俗字。以下採らず)。

97、(22才)「蚩尤」

奎「土勃者、正月起亥。皆順六陰辰」。

北「土教者、正月起亥。皆順行六陰」。

(『星曆』に「皆順行六陰辰」に作る)。

98、(22才)「天刑」

奎「李鼎祚曰、天刑者、正月起寅」。

北「李鼎祚曰、天行者、正月起寅」。

〔「天行」は「天刑」の誤り〕。

99、(22ウ)「八龍」

奎「震圭謂、亥者、陰氣極絶也。子者、陰氣盡絶也」。

北「圭謂、亥者、陰氣極絶也。子者、氣阴尽絶也」。

〔奎本に従い、「陰氣」に作るべし〕。

100、(22ウ)「八龍」

奎「今四時王干加之者、是夫王而婦也。故忌如此。然甲乙者、青龍也。其數七。庚辛者、白虎也。其數九」。

北「今以四時王干加之、是夫王而婦哀也。故忌如此。然甲乙者、青龍也。其數八。丙丁者、朱雀也。其數七。庚辛者、白虎也。其數九」。

〔奎本に「丙丁者」以下の九字を脱す。『星曆』に「今以四時旺干而配亥子、是夫旺而婦絶。…按、甲乙者、東方木也。為青龍。其成數八。丙丁者、南方火也。為朱雀。其成數七。庚辛者、西方金也。為白虎。其成數九」に作る〕。

101、(23オ)「九醜」

奎「金櫃經曰：戊巳者、北辰位下之日辛日、萬物決断之日」。

北「金櫃經曰：戊巳者、北辰位下之日辛者、万物決断之日」。

〔『星曆』に「辛者」に作る〕。

102、(23ウ)「八專」

奎「震圭謂、八專者、是陰陽不正、無姪之亂也。故其日不

可嫁娶。又曰、帷簿不修者…」。

北「圭謂、八專者、是阴不正、無姪之乱也。故其日不可嫁娶。又曰、帷簿不修者…」。

〔『星曆』にこの文無し〕。

103、(23ウ)「八專」

奎「大抵征伐之事、政在智信仁勇嚴也。故智信仁為先、謀畧也。仁者次之。德至盛也。…征伐不義、則獲之、無不利也」。

北「大抵征伐之事、故在智信仁勇嚴也。故智信為先、謀略也。仁者次之。使之盛也。…征不義、則獲之、无不利也」。

〔『星曆』にこの文無し〕。

104、(24オ)「五離」

奎「曆例曰、五離者、申酉是也」。

北「曆例曰、五離者、申酉日也」。

〔『星曆』に「五離者、申酉日是也」に作る〕。

105、(24ウ)「重日」

奎「天寶曆曰、重日者、陰陽初起於亥、…故曰重日。其日忌為凶事。為吉事」。

北「天寶曆曰、重日者、陰陽初起于亥、…故曰重日。其日忌為凶事。利為吉事」。

〔『星曆』に「利為吉事」に作る〕。

106、(24ウ)「復日」

奎「曆例事、復日者、正・七月、甲庚。…」。

〔『星曆』に「利為吉事」に作る〕。

106、(24ウ)「復日」

北「曆例曰、復日者、正・七月、甲庚。…」。

(奎本の「事」は誤り)。

107、(24ウ)「復日」

奎「震圭謂、復日者、重見也。為遇本建之辰。有所忌之干同也」。

北「圭謂、復日者、重見也。為遇本建之辰。有所寄之干同也」。

(『星曆』に「與所遇之干同也」に作る)。

108、(25ウ)「復日」

奎「又按、地理新書云、正月、甲。…十一月、壬也」。

北「又按、地理新書云、正月、甲。…十一月、癸也」。

(『星曆』に「十一月、癸」に作る)。

109、(25才)「上朔日」

奎「堪輿經曰、上朔日者、月中凶神也」。

北「堪輿經曰、上朔者、月中凶神也」。

(北本は「日」を脱す)。

110、(25才)「上朔日」

奎「震圭謂…故來會於極陽而不長。往會于極陽」。

北「震圭謂…故來會于極陰。々无陽而不長。往會于極陽」。

(奎本「故來會於極陽」の「陽」の字は「陰」の誤りである)。
『星曆』に「以陽而會於極陰、以陰而往會於極陽」に作る。北本「丁」は「于」の誤り)。

111、(25ウ)「四離日」

奎「玉門經曰、離者、陰陽分至前一辰也」。

北「玉門經曰、四離者、阴阳分至前一辰也」。

(『星曆』に「離者」に作る)。

112、(25ウ)「四離日」

奎「謂、離者、分離去而不再來也。其忌如此」。

北「謂、離者、分离去而不再來也。其忌如此曹震圭也」。

113、(26才)「四絶日」

奎「震圭謂、絶者、絶其蹤跡音信也」。

北「圭謂、絶者、絶其蹤跡之信也」。

(『星曆』にこの句無し)。

114、(26才)「長短星」

奎「曆例曰、長星者、正月初二」。

北「曆例曰、長星者、正月初七」。

(『星曆』に「初七」に作る)。

115、(26ウ)「長短星」

奎「假令長星者金星長庚也。是月建内所寄之干。依五虎元

遞得庚辛也。然後自建辰數去前途宮數者。…或可用者明

注于後亥子巳午而取之」。

北「假令長星者金星長庚也。是月建内所寄之子。依五虎元

遞得庚辛也。然後自建辰數居前逢宮數者。…或可用者明

注于後亥子巳午而取之」。

116、(26ウ)「長短星」

奎「三月辰。無寄、就乙建得庚辰。止是一言也」。

北「三月辰。无寄、就乙建得庚辰。止是一也」。

〔『星曆』に「三月建辰。辰中所無寄、就乙仍遁得庚辰。止是一數也」に作る。〕

117、(26ウ)「長短星」

奎「四月建巳。以丁配得庚戌也。自巽四至戌。共九也。互取干者、初用宮數」。

北「四月建巳。以丁配得庚戌也。自巽四至戌五。共九也。取干者、初用宮數」。

〔『星曆』に「四月建巳。巳中有丁。以丁遁得庚戌。自己之巽四。歷午未申酉戌、共九數也」に作る。〕

118、(27オ)「長短星」

奎「六月就丙。從庚戌也。故未一、坤一、至戌共得一十也。

此月用宮數。得金旺之位。

北「六月就丙。從庚戌也。故未一、坤二、至寅共得一十也。

此月用宮數。是金王之位也。

〔『星曆』に「六月建未。就丁遁得庚戌。自未申歷酉之兌七。至戌共得一十也」に作る。〕

119、(27オ)「長短星」

奎「七月建申。寄庚為同體。不從遁辰而從旺辰酉也。故申一、酉七、共得八也」。

北「七月建申。寄庚為同體。不從遁辰而就王辰酉也。故申一、酉七、共得八也」。

〔『星曆』に、「七月建申。申中有庚為同體。又秋冬用辛。

故不用遁辰而用旺辰之酉。自申至酉之兌七、共得八數也」に作る。〕

120、(27ウ)「長短星」

奎「三月就乙去。從丙子。自辰一巽四至子、得一十三也。減、餘一十六也」。

北「三月就乙去。從丙子。自辰一巽四至子、得一十三也。減、一十六也」。

〔『星曆』に「三月就乙、遁得丙子。自辰一歷巽四至子、得一十三也。以減二十九、餘一十六也」に作る。〕

121、(27ウ)「長短星」

奎「五月就丙、得丙申。自午一、未一、申一、共三。去減二十九。餘二十六也。今疑。未知孰是。

北「五月就丙、得丙申。自午一、未一、申一、共三。去減二十九。餘十六也。今差一。未知孰是。

〔『星曆』に「五月丙、遁得丙申。自午至申、之坤二、共四。以減二十九、餘二十五也」に作る。北本に「十六」に作るは誤り。〕

122、(28オ)「長短星」

奎「八月辛。…今不去減、謂在一十六己丑也」。

北「八月辛。…今不去減、謂在十六己上也」。

〔『星曆』に「八月辛。…不去減二十九者、以其在一十六以上也」とあるにより、北本の「己上」に作るべし。〕

123、(28オ)「長短星」

奎「九月就辛。退得丙午・丁未。自旺止從丙申・丁酉。

故自戌至申、得一十一。至酉得二十二。各去減、餘

一十七、一十八日。今十九者、未明孰是」。

北「九月就辛。退得丙午・丁未。自王止從丙申・丁酉。

故自至戌申、得一十一。至酉得二十二。各去減、餘

一十七、一十八日。今十六者、未明孰是」。

〔『星曆』に「故自戌至申」「今為十六日、十七日者、未

知孰是」に作る。〕。

124、(28才)「長短星」

奎「十月建亥。…餘一十六也。今十四者、非也。天抵長星在十五日巳下。短

星在十六巳上。

北「十月建亥。…餘一十六也。今十四者、非也。大抵長星在十五日巳下。短

星在十六巳上。

(奎本の「天抵」は「大抵」の誤り)。

125、(28ウ)「長短星」

奎「右接、南本云、長短星亦有與今曆三三不同者」。

北「石接、南本云、長短星亦有與今曆三三不同者」。

126、(28ウ)「紅沙日」

北「紅沙者、乃金象堅剛、為肅殺之叔也。四序、以孟酉・仲巳・

季丑、三日。会金局為斯庇、是也」。

(奎本に「紅沙日」の記述無し。『星曆』にも見えない。

後に付け加えられた文か)。